

CONTENTS

03
国際施策の歩み ～次代を拓く自治体外交～

05
国際事業推進の意義

07
重点的な取組事項

09
国際事業への取組姿勢

横浜の成長とグローバルな課題解決。 「世界と共に成長する横浜」

横浜は開港以来、海外との玄関口として経済や文化の交流の歴史を重ね、活気あふれる国際都市として成長してきました。

グローバル化・複雑化が進む今日の国際情勢において、将来にわたり持続的に横浜を成長・発展させていくためには、海外の活力を積極的に取り込むとともに、海外との交流により多様な考え方に触れる機会を増やし、新たな価値を生み出して都市の魅力を高めていくことが必要です。

また、都市への人口の集住化が進み「都市の世紀」と言われる中、これまで以上に海外諸都市との連携や国際機関との協力を深め、互いに価値を高め合い、政策課題の解決に向かう自治体外交の重要性が高まっています。

横浜市は、市民、企業、関係機関の皆様と共に、戦略的に国際事業を展開し、国内外の人や企業に選ばれる国際都市の実現を目指すとともに、女性の活躍促進、地球温暖化や防災など、グローバルな課題の解決に取り組み、世界の平和、安定と発展に貢献します。



横浜市長 林 文子



国際施策の歩み ～次代を拓く自治体外交～

時代の先を行く取組の蓄積が
今の横浜らしさを形作っています。



1950
横浜国際港都建設法

我が国の国際文化の向上と経済復興への寄与を目的としたこの法律により、港湾施設の拡充、交通網の整備、臨海工業地帯の造成などが計画されました。



1987
シティネット創立

アジア太平洋都市間協力ネットワーク(シティネット)を設立し、都市課題解決に向けて中心的な役割を果たしてきました。



1994
パシフィコ横浜オープン

横浜の顔となる会議施設「パシフィコ横浜」が完成。同年には第10回国際エイズ会議、国連防災世界会議を開催し、MICE都市として新たな一歩を踏み出しました。



2010
国際会議での政策発信

2010年にAPEC首脳会議を横浜で開催。以降、継続的にAPEC「女性と経済フォーラム」へ参加し、女性の活躍促進の取組を発信してきました。

1859 1950 1957 1963 1986 1987 1994 2002 2008 2010 2013 2015

1859
横浜開港

開港以来、この国際貿易港を舞台に市民や企業が活躍し、日本の近代化をけん引してきました。



1957
サンディエゴと姉妹都市提携

サンディエゴとの提携以来、約60年の間に8つの姉妹・友好都市提携を行い、市民が中心となって交流を深めてきました。



1986
国際機関・ITTO本部を誘致

国際熱帯木材機関(ITTO)をはじめ、国連世界食糧計画(WFP)、国連食糧農業機関(FAO)など国際機関の誘致・支援を積極的にすすめ、国際的課題の解決に取り組んできました。



1987
ピースメッセンジャー都市

多彩な交流実績や国際機関の誘致・支援などが評価され、国連から「ピースメッセンジャー都市」の称号を授与されました。



2002
2002 FIFA ワールドカップ™ 決勝戦開催

決勝戦の地として横浜が選ばれ、世界に発信されました。以降も数々の大型国際スポーツ大会が横浜で開催されています。



2008
TICADIV開催

第4回アフリカ開発会議(TICADIV)が横浜で開催。第5回(2013年)も引き続き開催都市となり、「アフリカに一番近い都市」としてアフリカとの交流・連携を深めています。



2015
Y-PORTセンター*の発足

新興国の都市課題解決と市内企業の海外展開支援を目的に、企業や専門機関などと連携して取り組んでいます。



* Y-PORT:Yokohama Partnership of Resources and Technologies

国際事業推進の意義

横浜の持続的な成長とグローバルな課題解決に貢献します

今後見込まれる変化

1 新興国市場の拡大と 高齢化関連市場の拡大

アジア・アフリカをはじめとした新興国の市場拡大や高齢化の進展は、横浜市にとってビジネスチャンス拡大につながります。



2 ビジネスと国際貢献との 関係の変化

新興国での開発協力において、一方的な「援助」から対等な互恵的「協力」へと環境が変化中、ビジネスをすること自体が国際貢献につながる時代になっていくと考えられます。



3 国際社会における都市間 競争と都市の役割の増大

世界的に都市への集住化が進み、都市の役割が一層大きくなっていく中、日本有数の大都市・横浜が貢献できる可能性も広がっていきます。



国際社会の動き
持続可能な
開発目標(SDGs)
TPP協定、
COP21パリ協定など

国の政策
日本再興戦略
開発協力大綱など

【目指す姿】世界と共に成長する横浜
～都市として持続的に成長していくための投資～
自らの成長、国際都市としてのアイデンティティの強化、
国内外への発信力強化、
世界の平和・安定と発展に貢献

横浜

海外

目標1

海外から活力を取り込む

成長著しいアジアをはじめとした海外のパワーを横浜に取り込み、ビジネスチャンスの創出など、横浜の活性化へ。

目標2

多様な考え方に触れる機会を増やし、
新たな価値を生み出す

多様な文化・価値観との交流機会、海外への挑戦機会が豊富にある横浜。新たな価値の創造に向けて、多様性を尊重・共存できる社会へ。

目標3

国際貢献を通じて、
国際社会における評価を獲得し、
良好な関係を構築する

横浜市の都市経営に関するノウハウを生かして、諸外国の都市課題解決に積極的に貢献。国際社会との良好な関係の構築へ。



重点的な 取組事項

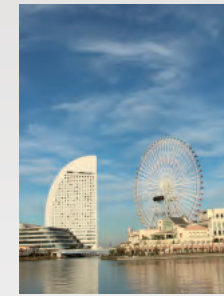
横浜の強み

横浜は国内屈指の都市ブランド力に加え、都市インフラなどのノウハウ、国際会議や大規模スポーツイベントの豊富な経験、海外との多様な交流の蓄積などの強みを有しています。さらに、異国情緒漂う雰囲気や、都市の利便性と自然環境を兼ね備えた住みやすさは国内外の人々を魅了しています。

様々なチャンス

観光・MICE市場の拡大、新興国におけるインフラ需要の高まり、ラグビーワールドカップ2019や2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会など、横浜が国際事業を推進する上で、様々なチャンスがあります。

横浜の強みと機会を生かし、
更なる強みを創出するため、
重点的な取組をすすめます。



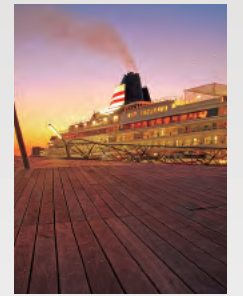
1 横浜の更なる ブランド力強化に向けた 国内外への発信

各種メディアや国際会議など様々な媒体を活用して横浜市の魅力や取組を発信していきます。



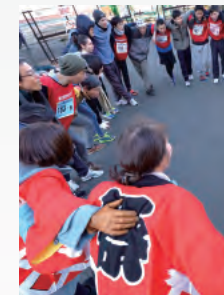
2 パートナーシップと ネットワークを通じた 都市間連携の展開

姉妹・友好都市や国際機関、各国大使館などとの連携を強化するとともに、大学や研究機関の集積を生かして、国際事業の発展につなげていきます。



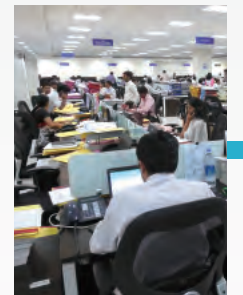
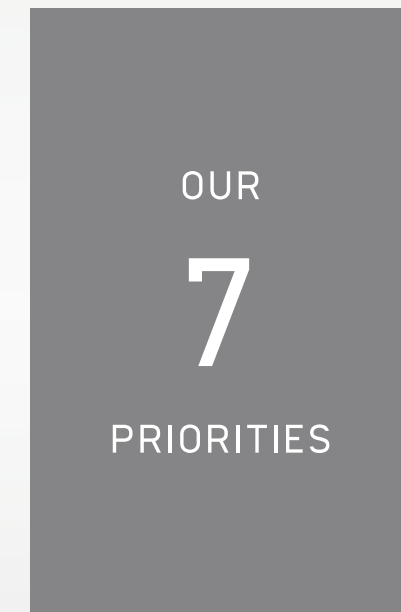
3 観光・MICE、大規模 スポーツイベントによる 魅力・活力の創出

観光やビジネスでの海外からの来訪客を、心をこめてお迎えします。また、国際会議や大規模スポーツイベントを積極的に誘致して魅力・活力を生み出します。



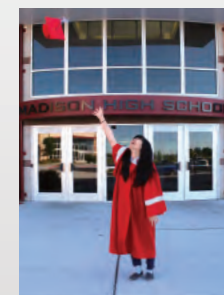
7 多文化共生による 創造的社会的実現

開国以来、海外から多様な文化や考え方を受け入れて発展してきた横浜。市内で暮らす外国人にも暮らしやすいまちづくりを目指します。



4 横浜経済をけん引する 国際的な ビジネスチャンスの創出

海外からの企業誘致や市内企業の海外展開を支援し、国際的なビジネスにつなげていきます。



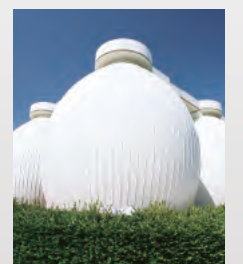
6 グローバルな視野を 持った若者の育成

これからの時代を担う若者が、多様な国の人々や文化を理解し、ともに解決する力を養っていきけるよう、留学支援など、相互の交流拡大を進めます。



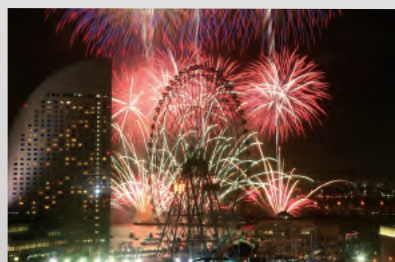
5 横浜の資源や技術を 生かした国際協力

世界的に都市部への人口集中が進み都市問題が顕在化する中、いち早く課題に取り組んできた横浜が、その経験や技術を生かして積極的に国際貢献していきます。



国際協力を通じた ビジネスチャンスの創出 (Y-PORT*事業等)

新興国の都市課題解決と市内企業の海外ビジネス展開の支援をめざすY-PORT事業を推進します。



国際事業への取組姿勢

横浜は歴史的に開港の地として海外との関わりが深く、多くの国・地域との幅広いネットワークや海外事務所を持っています。これらの「資源」を最大限に活かし、様々なパートナーと連携を深めながら国際事業を展開していきます。

横浜の海外ネットワーク

Europe & North America

ヨーロッパ・北米

社会の高齢化や環境問題など、横浜市とも共通する課題が存在しています。環境分野をはじめとした行政課題の解決策をともに模索しながら、情報発信を行う場として事業展開していきます。また、成長・発展が見込まれる分野の企業誘致を進めるほか、更なる学生交流を推進します。

Other International Networks

その他多様な主体間のネットワーク

姉妹・友好都市、パートナー都市など2都市間の関係のほかに、横浜は次のような多様な主体間のネットワークを持っています。

- シティネット(アジア太平洋都市間協力ネットワーク)
- 水道事業者間ネットワーク
- C40(世界大都市気候先導グループ)
- アジアスマートシティ会議など

Central & South Americas

中南米

日系移民の存在など、深いつながりを有しています。ASEANを超える経済規模を有しており、今後、中長期的な視野に立って、ビジネスをはじめ幅広く交流の機会を創出していきます。

Asia & Oceania

アジア・大洋州

ビジネスの展開先として市内企業のニーズが非常に高いほか、訪日観光客も多く、誘客促進の最重点地域です。さらに、学生交流の推進や、旺盛なインフラ需要に対して横浜市の都市づくりのノウハウを活かした積極的な貢献を果たしていきます。

Africa & Middle East

アフリカ・中東

高い水準で経済成長が続いており、今後のビジネスの可能性を秘めています。過去2回のTICAD(アフリカ開発会議)の開催実績をもとに、交流の一層の深化と開発課題解決への積極的貢献を図り、市内企業のビジネスにもつなげていきます。

- 姉妹・友好都市
- パートナー都市
- 海外事務所
- ⚓ 姉妹港・友好港・貿易協力港
- ◆ その他(共同声明を発表した都市、Y-PORT事業での連携都市)



横浜市国際局政策総務課

横浜市中区尾上町1-8関内新井ビル3F ☎045-671-3826 📠045-664-7145 🌐 www.city.yokohama.lg.jp/kokusai/

横浜市国際局



H28年3月発行